

2023 年度 福祉助成金（活動助成） 成果報告書

ふりがな	にんていとくていひえいりかつどうほうじん ぽけっとさぽーと	
団体名	認定特定非営利活動法人ポケットサポート	
代表者名	代表理事 三好 祐也	
連絡先	住所	岡山県岡山市北区奥田本町 2 2 - 2
	TEL	0 8 6 - 2 8 9 - 8 5 2 8
	E-mail	info@pokesapo.com
	URL	https://www.pokesapo.com/
設立年（西暦）	2015 年	
助成活動名	岡山県内で病気療養する高校生世代の支援拡充事業	
助成額	700,000 円	
活動内容	目的	<p>学齢期に小児がんや心臓病などを発症した子どもたちは、小児科から成人科へのトランジション（移行）を経験することが多い。現在、岡山大学病院でも小児科から内科へのトランジション外来に積極的であり、就学・就労支援について勉強会を開催していると聞いている。AYA 世代（思春期・若年成人の頭文字：主に思春期 15～39 歳まで）と呼ばれる特に 15～18 歳の高校生は、義務教育でないため院内学級が整備されておらず、出席や単位の不足により留年や休学をするも珍しくない。病気療養中でも「学びたい」と願う高校生・大学生が等しく平等に学習保障され、同級生と同じように学び、治療にも前向きに取り組む意欲を高められるように、医療機関はもちろん、学校現場や教育委員会等の連携強化や、相談支援窓口の認知度向上が不可欠だと考える。</p> <p>本助成事業では、AYA 世代における医療や教育・行政を横断した多職種連携ネットワークづくりおよび学校現場や医療関係者・保護者家族からの個別相談事例の蓄積と共有を目的に、啓発講演会の開催と当事者家族や各専門職への周知活動を実施する。</p>
	内容	<p>①岡山県内における AYA 世代支援ネットワークづくりフォーラム 【開催日時】 2023 年 8 月 6 日（日）13～16 時 【講師】・昭和大学大学院保健医療学研究科 准教授 副島 賢和 先生 ・岡山大学病院小児科（血液・腫瘍） 医師 石田 悠志 先生 【会場】 岡山大学鹿田キャンパス J ホール 会場参加と YouTube 配信によるハイブリットで、岡山県、岡山県教育委員会、岡山県医師会、岡山県看護協会等の後援申請許可の下開催した。 副島先生による基調講演、石田先生による大学病院での現状や取り組み報告、ポケットサポートによる事例紹介、ゲスト 3 名によるトークセッションと質疑応答を行った。当日参加できなかった関心層へ向けて、当日の様子を録画編集したアーカイブ版の公開を行った。後日、アーカイブ視聴できる QR コードを掲載したパンフレットを学校や病院等に発送した。</p> <p>②教育・保健・医療・NPO が連携した AYA 世代の個別相談支援強化 ポケットサポートがハブとなり教育・医療・保健・保護者をつなぐ役割を担う『病気療養児多職種連携ネットワーク会議』を開催（※個別性の高い相談に対して様々な事例が多機関多職種で共有されることにより、入院中や復学段階の児童生徒の様々な状況に適したサポートを支援者同士で共有する場とする。主な出席者は岡山県医薬安全課、岡山県教育委員会、岡山市保健所、倉敷市保健所、備中保健所、岡山市教育委員会、倉敷市教育委員会、早島支援学校で構成されている。この会議はポケットサポートが主催して、2022 年 6 月に第 1 回目を実施した。）高校受験に関する合理的配慮の課題、入院中のオンライン授業、出席日数や単位取得に関する課題、就労や医療的ケア児の送迎に関する課題な</p>

	<p>ど議題は多岐にわたるが、主訴として、当事者家族が安心して暮らせるように関係機関と横のつながりを深めていった。</p> <p>すべての相談事例は Salesforce（セールスフォース）を活用した相談事例共有システムで一元管理をし、進捗管理やカテゴリズによる地域課題抽出・政策提言に役立てている。支援終了後には当事者家族に支援後アンケートを送付し客観的評価および相談事業の改善を繰り返していく。</p>
<p>成果</p>	<p>8月6日に開催したフォーラムの現地参加およびYouTube 配信視聴者は432名（運営スタッフを含む）となった。当日の参加者からとYouTubeのライブチャットに寄せられる質疑応答も活発に行われていた。参加者全体の当団体を既知割合は50%だったが、地域別でも30を超える都道府県から申し込みがあり、アンケートの満足度も9割を超える好評価で、病気療養する子どもの支援者を中心に全国的な関心を寄せられた内容だったと考える。</p> <p>前年に比較し、AYA世代からの相談が多くみられた。「高校生当事者からの学習支援」「10代後半で同じように闘病する人と交流がしたい」「20代で小児科から移行するにあたり、主治医が代わることが不安」といった、この世代特有の相談内容が顕著だった。10代後半は県の難病相談に連絡をしたところ、該当する年代ではなかったため、その後岡山市の保健所を経由し当団体へつながり、AYA世代全ての相談について、それぞれの求める支援につなぐことができた。</p> <p>▼参加者アンケートの感想（一部抜粋）</p> <p>◎子どもたちが辛い時、困った時にどんなふうに支えることができるのか、方法の一つを教えてください、今後に活かしていきたいと思いました。たくさんの感銘を受けました。ありがとうございました。</p> <p>◎このフォーラムに参加しなければ知り得なかった事が多々あり驚きました。行政へ手の届きにくさに痛感と共に、皆様方の活動に心が熱くなりました。</p> <p>◎オンライン視聴も可能だったことで、現地に足を運べない方もこのような学びの機会を得られたことは大変ありがたかったです。</p> <p>◎ポケットサポートの活動が全国に広がると良いなと感じた。2学期からの生徒との関わりに活かしていきたいです。</p>
<p>今後の課題と対応策</p>	<p>病気療養する高校生世代の支援は、県内だけでなく全国的に課題として挙がってきており、本フォーラムの関心度の高さを踏まえ、当団体が各地域での当事者支援につながるコーディネートを担当していきたいと考えている。</p> <p>岡山県（岡山市・倉敷市を除く）の小児慢性特定疾病児童等の相談事業は、年間数十件と聞いている。一方で、当団体には年間で40件程度の相談が寄せられており、当事者が支援につながる施策として当団体が必要なハブになれるのではと考えている。行政にも働きかけながら、多職種連携の必要性を訴え、当事者らの相談に応えられる状況をつくっていききたいと考えている。</p> <p>フォーラム開催等による周知・啓発から相談受付・情報共有・関係機関の連携をワンストップで実現することで、今後も当事者家族の不安や悩み解決だけでなく心理的ストレスを軽減し、今後も誰ひとりとして排除されることなく、学びたいと望む場所で共に生きる共生社会の実現に寄与していきたい。</p>



写真の提出

病気を抱える子ども支援・多職種連携オンラインフォーラム

「誰もが助けると言える社会に」

～ みんなひとりじゃないよ 大丈夫 ～

【第1部】基調講演

「みんな今日は初めての日」

昭和大学大学院保健医療学研究科
准教授 **副島 賢和** 先生

福岡県生まれ。25年間東京都の公立小学校勤務。内8年間、品川区立清水台小学校でいじめ学級（昭和大学研究科）担任。現職は、昭和大学附属病院内学級担当。学校心通士スーパーバイザー。2009年ドラマ「赤い心」のモデル（日本テレビ）のモデルとなる。2011年プロフェッショナル仕事の流儀出演。ホスピタル・クラウンの活動にも参加している。

【第2部】トークセッション

テーマ
「多職種連携で大切なこと」
～ゲスト3名とともに考える未来への希望～

- ・昭和大学大学院保健医療学研究科 准教授 **副島 賢和** 先生
- ・岡山県教育庁特別支援教育課 指導班 指導主事(主幹) **碩末 敏秀** 先生
- ・認定NPO法人ポケットサポート 代表理事 **三好 祐也**

参加対象 特別支援教育などを学ぶ学生・教育関係者、医療関係者、行政関係者、地域支援担当者など

開催日時 2022年8月7日(日) 13時～17時 ※詳細は裏面参照

会場 YouTube ライブ配信にて生中継(ライブチャットで質問可能)

参加費 参加無料 ※8月5日(金) 15時までに事前申込が必要

主催：認定特定非営利活動法人ポケットサポート
後援：岡山県教育委員会、岡山市、岡山市教育委員会
助成：公益財団法人 橋本財団

お問い合わせ **ポケットサポート事務局** (所在地：岡山市北区奥田本町 22-2)
イベント詳細 WEB <https://www.pokesapo.com/a22>